

Yusuhara a Home from Home (第23部)

イギリス新国王の戴冠式 (King's Coronation)

梶原学園 ALT : スティーヴン・ウダード

文化的、社会的、そして政治的に考えてみても、ここ数年間というものは、歴史に残るような出来事がたくさんありました。残念ながら、その多くはあまり喜ばしいものではありませんでしたが……。僕の母国イギリスも例外ではなく、ブレグジットをめぐる混乱、新型コロナウイルスの大流行、エリザベス女王の崩御など、ちょっと思いつくだけでもいくつもあります。それでもイギリスにとっては、間違いなく大きな区切りとなる出来事が最近ありました。

5月6日は、新国王チャールズ3世の戴冠式でした。国とコモンウェルス*をあげての盛大な祝典となりましたが、変更が完了してしまうまでにかかりそうなものも、数多く見受けられます。最も顕著なのは、おそらく"God Save The Queen" (『神よ女王を守りたまえ』) から"God Save The King" (『神よ国王を守りたまえ』) への、国歌の変更でしょう。歌詞としてみれば、これはささやかな変化にすぎませんが、国家レベルにおいて、ひとつの国を象徴する変更と言えます。お金と切手も、新国王の肖像が描かれるために、差し替えが必要となってきます。お金については、エリザベス女王時代のおさつと貨幣が少しずつ消えていくのと入れ替わりで、新しい図案で印刷されたり、鋳造されたりすることになるでしょう。イギリス中どこでも見られる、あの有名な赤い郵便ポストも、女王の紋章ではなく、新しい国王の紋章入りのものになってしまうと思います。そして軍服や、警官の制服も……。将来、もしイギリスを訪れる機会があったら、ぜひ注意してみてください。その時には新旧2つの、いやひょっとしたらそれ以上の、イギリスの君主にまつわる物品や標識を目にするかもしれません。



観光名所であり世界遺産でもある、ロンドン塔の衛兵の制服も、新国王の紋章入りに変わりました。

*コモンウェルス：イギリス連邦。かつて大英帝国を構成していた諸国家による、ゆるやかな国家連合。

(日本語訳：町 ALT 森竹弘喜)